# 南山っ子通信

長崎南山小学校
学校生活だより
令和３年１月号
担当〔山田〕
N0.96

## 誰かの幸せを願う幸せ

教皇様，わたしたちは豊かな国で暮らし，経済的にも物質的にも何不自由なく生活しています。しかし，わたしたち日本人の多くは，本当の喜びや幸せを感じながら生活しているとはいえないように思います。教皇様，わたしは本当の幸せになりたいです。本当の喜びを感じ，本当の幸せになるためには，どうしたらいいのでしょうか。

着座以来，世界中の多くの国々を訪問され「空飛ぶ教皇」と呼ばれたヨハネ・パウロ２世教皇様がローマ法王として初めて来日されたのは１９８１年の２月，今からちょうど４０年前のことでした。

東京・広島・長崎を訪問された４日間の滞在中，東京での若者との集いの中で，一人の青年が進み出て教皇様に上記のような質問をしました。教皇様は，その青年にやさしく微笑みを向けながら次のように答えられました。

自分が幸せになりたいと願っている間は，あなたは決して本当の幸せにはならないでしょう。自分の幸せではなく，誰かの幸せを願って，そのために一生懸命に努力をしている時，あなたは本当の幸せになります。

また，ヨハネ・パウロ２世教皇様は，同じ集会の中で，若者たちに次のようなメッセージも送られています。

……ですから，若者として，貧しい人，飢えている人，身体の不自由な人，病気の人，苦しんでいる人，社会からはじき出されている人に，関心をもつべきです。彼らがどこにいようと，人間として皆さんの兄弟であり姉妹なのです。

……真の人間完成は，自己を与えることにあります。自己を与えることが完全であればあるほど，生きる喜びや満足も完全なものになることを，皆さんは知るようになるでしょう。助けを求めている人びとに手をさしのべる時，皆さんはかれらの希望，かれらの生きて行く力の源ともなるのです。

自分の喜びや幸せを願う前に，飢えや貧しさに苦しんでいる人々のことを思い，その人たちの幸せを願う思いは，南山小学校が毎年１月に参加している「世界子ども助け合い運動」や，児童会主催で行っているチャリティーバザーにも通じます。

「世界こども助け合いの運動」は，「子どもたちが子どもたちを助ける」をモットーに1843 年にフランスの教会で始められました。一日一度のアヴェ・マリアの祈りと毎月の小さな犠牲によって，自分たちとは異なる環境に置かれた世界中の恵まれない子どもたちに支援の手をさしのべようというものです。現在では，この運動は全世界に広がり，カトリック教会のみならず，カトリック系の学校，幼稚園，保育園などの児童生徒や園児からも支持されるようになってきました。もちろん，保護者の温かい理解のもとに行われているものです。南山小学校では，毎年，お正月にもらったお年玉やお小遣いの中から自分たちにできる範囲で献金の協力をしています。

今年度集められた南山小学校の献金の総額は，１２９６４３円でした。カトリックセンター内の教区事務所に届けられたこの献金は，世界中の恵まれない子どもたちの幸せを援助するために使われます。

南山小学校のチャリティーバザーは平成元年度に始まりました。戦争や貧困，災害，その他様々な理由で貧しい生活を強いられている人たち，特に小さい子どもたちに愛の手をさしのべたいという当時の６年生の発案によって始められたものです。

これまでには，島原の火砕流や阪神淡路大震災，東日本大震災の被災者のため，またフィリピンや南米の貧困に喘ぐ子どもたちのため，ソマリアやアフガニスタンの難民を救済するため，マザー・テレサやユニセフの活動を援助するためなどに収益金を使ってきました。

毎年，各クラスが知恵を出し合い協力し合って楽しいゲームや催し物を行っているチャリティーバザーですが，今年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止のために密に集まることができません。生活委員会や広報委員会の５・６年生のチャリティーバザー実行委員が中心となって話し合った結果，今年度は，新型コロナウィルス感染症を予防するための取り組みを各クラスで考え，チャリティー募金の形で実施することにしました。送り先は，「長崎県コロナウイルス感染症対策寄付金」です。募金に寄せられた１５５７３３円は，感染拡大の防止や医療提供体制の充実など，長崎県民の命と健康を守るため，長崎県民の幸せのために使われます。

## ♧♧ 教室紹介 ♧♧

### ３年２組　担任　平田瑞穂先生

「やさしさいっぱい　えがおもいっぱい」の学級目標の通りに，３年２組の子どもたちは，チームワークがよく，みんなでいっしょに活動することが大好きです。遊びでも勉強でも一人ひとりに得意なことがあって，互いに教え合ったり，「ドンマイ！」と励まし合ったりしながら毎日仲よく過ごしています。一つのことに力を合わせてみんなで進んでいる仲のよさは，子どもらしくてホントに微笑ましく見えます。

土曜日の習字の時間もとても楽しみにしている子どもたちです。慣れた手つきで墨をすり，真剣な面持ちで筆を動かしています。後片付けも上手になり，早く終わった人は，お友達の手助けも進んでやってくれます。今年最初の習字は「元」という文字でした。遠くから見るとどれも同じように見えますが，近くから見ると個性に溢れていることに気づかされます。この「元」の文字のように，自分らしく元気いっぱいに成長していってほしいと平田先生は願っています。

### ♪アーメン　ハレルヤ

**１．せかいのみんな きょうだいさ**
**はなすことばが ちがっても**
**主にむかうこころは**
**みんなおなじ こどもだから　※**

**２．せかいのみんな ともだちさ**
**はたらくばしょが ちがうけれど**
**主にむかう こころで**
**ひとつになって 分かつちから　※**

**※アーメン ハレルヤ**（４回くり返し）